

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部・第2部特別課程第37期）

東京都庁 佐久間 麻由

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

まだ暑い9月の初め、不安と期待が入り混じった気持ちで立川駅に降り立った。「業務に穴をあけて迷惑をかけてしまうな」、「生活環境が変わるのについていけるかな」、「同期の仲間はどんな人だろう」と考えながらも地図を頼りに約20分。気が付けば目の前には自治大学校前の交差点。この瞬間から約3週間、全力で駆け抜けた研修生活を今ここで振り返りたい。

2 基本法制研修B（e-ラーニング）

研修に先立って、地方自治に重要な関連を有する法制（行政法、民法）や地方自治制度、地方公務員制度、地方税財政制度について高度な知識を習得する約2週間の研修（基本法制研修B）がある。業務の都合上参加が困難であった私は、e-ラーニングで履修した。必修の4科目の他、5科目の追加受講が可能だった。予想をはるかに超えるボリュームに圧倒されながらも、時間を見つけ少しずつ学習した。わかったつもりが多く確認テストでは苦労したが、教材のスライドが分かりやすく、何度でも視聴できたので、復習もスムーズで学習効果を上げることができた。修了証書を発行したときは達成感を味わえ、期限に余裕をもって計画的に物事を遂行することの難しさと重要性を改めて感じた。

3 第1部・第2部特別課程

（1）事前課題

ある日、事前課題として、4冊のテキストとレポートの書き方の本が送られてきた。前者は、テキストを熟読し、設問に対する答えをA4用紙2枚程度にまとめ、研修中に使用するもの。後者は、3テーマから1つを選択し、政策課題に対する解決の方向性を示す形で約1万字のレポートを卒業までに作成するもの。事例演習もレポートも、テーマとなったのは自分の業務と全く関係ない分野ばかり。使われている用語も前提となる制度もわからず、まさにチンプンカンプン。それでも、貴重な成長機会と自分に言い聞かせて食らいついた。用語や制度を調べるところから始め、自分の自治体の状況を理解し、自分なりの考えをまとめ上げる。時間的にも厳しく負担感はかなり大きかったが、やればやるほど新しい知識が増えていく。これまで「食わず嫌い」で複雑な制度の学習は極力、自身の業務に関わる範囲に限定してきたが、多様な制度を体系的に理解することで自身の業務への理解がより一層深められると分かり、周辺知識を獲得することは肝要であると心得た。

（2）研修内容

座学、事例・ディベート演習、レポート作成の3要素で構成された研修を一文で表すなら「幅広い分野を、約3週間で存分に『学び倒す』という贅沢」になるだろう。

座学でまず驚いたのは、講師陣の質の高さだ。講義の内容は言うまでもなく、70分という時間が短く感じられるほど引き込まれるプレゼンテーションを、多い日で5パターン、毎日体感できる。日々の業務を遂行する中ではなかなかできない贅沢体験である。また、比重が高かった事例演習とディベ

ート演習は、事前課題を基に、4名程度のグループで討論し、限られた時間でグループの結論をまとめなくてはならない。全国津々浦々、様々な規模の自治体から集められたメンバーであるがゆえ、いざ討論を始めると、切り口も、課題設定も、解決の方向性も何もかもが新鮮。自分の中で「常識」と思っていたことが、他の人からすると「非常識」であることを知ったり、まったく思いつかなかった視点から物事をとらえている人がいたり、発見の連続だった。同時に、異なる意見をどうまとめるのかというファシリテーション能力を鍛える時間でもあったと感じている。一番の不安要素だったレポート作成は、「読みやすく、表現したいことが相手に正確に伝わる」ことを意識して取り組んだ。調べたこととそこから考えたことを漏らさず入れ込み、論点がずれないように整理しながら、自分の言葉で表現するのが、どれほど骨の折れることなのか。提出できたのは、卒業間際の締め切り前夜で、その時感じたのは安堵と寂しさだった。

4 研修で得たもの

本研修で得たものは、幅広い視野、多くの視点、一段高い視座そして深い知見と、これまでの自分がいかに「井の中の蛙」として生きてきたかを思い知ることができたのも、大きな収穫の一つである。また、講義や演習の中で、課題発見力やコミュニケーション力、情報整理力そして思考力を涵養できたと感じている。職務遂行に直結する能力の向上というだけでも十分な成果と言えるが、なによりこの研修に参加しなければ一生出会えなかったかも知れない素晴らしい方々とのめぐり逢いこそが財産である。励ましあい課題を乗り越え、時に熱く議論を交わした同期の仲間たちはもちろん、講師や自治大学校職員等、関わってくださった全員と過ごした一瞬一瞬が何物にも代えがたい宝物となった。

5 おわりに

9月27日、気持ちいい秋晴れの下、私は自治大学校を卒業した。学生生活の初めに感じた不安は気づけば期待に塗り替わり、その期待は一度も裏切られないまま、いつの間にか口ずさめるようになった校歌を歌い切っていた。ただ直向きにがむしゃらに駆け抜けたのは、いつぶりだろう。まだ自分にもできるのだと卒業証書を受け取ったとき、少しだけ自信が持てた。全身で受け取った「これからの地方自治を支える公務員として『目先のことだけにとらわれてはだめ』『本質を見抜く鍛錬を積んでほしい』」というメッセージは、周りの職員に伝えていきたいことの一つだ。日々の業務に忙殺されるだけでは得られない大切なものを手にした私の自治大生活。生涯忘れられないだろう。

